

6 章 擁 壁 工

6.1 プレキャスト擁壁工

6.2 補強土壁工（帯鋼補強土壁，アンカー補強土壁）

6.3 ジオテキスタイル工

6.4 場所打擁壁工

6.4.1 場所打擁壁（1）

6.4.2 場所打擁壁（2）

6章 擁壁工

6.1 プレキャスト擁壁工

1. 適用

プレキャスト擁壁の施工に適用する。

2. 数量算出項目

プレキャスト擁壁の延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、擁壁高さ、規格とする。

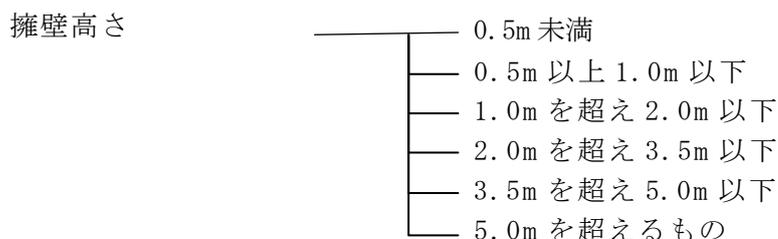
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

| 項目 | 区分 | | 擁壁高さ | 規格 | 必要の有無 | 単位 | 数量 | 備考 |
|-------------|---------|--|------|----|-------|----------------|----|---------|
| | | | | | | | | |
| プレキャスト擁壁 | | | ○ | ○ | — | m | ○ | |
| 基礎碎石 | 20cm 超え | | × | ○ | — | m ² | ○ | (注) 3、4 |
| | 20cm 以下 | | × | × | ○ | — | × | (注) 3、4 |
| 均しコンクリート | | | × | ○ | ○ | m ² | × | (注) 3、4 |
| ペーラインコンクリート | | | × | ○ | — | m ³ | ○ | |

- (注) 1. 製品を斜めにカットしたタイプの擁壁ブロックの高さは、中央値を採用する。
2. 床掘り、埋戻しは別途算出する。
3. プレキャスト擁壁高さが 0.5m 以上 5.0m 以下の場合、基礎碎石、均しコンクリートについては、数量の算出は必要ないが、必要の有無は記載すること。
4. プレキャスト擁壁高さが 0.5m 未満または 5.0m を超える場合は、基礎碎石、均しコンクリート、敷モルタル、目地モルタル、排水材等その他必要な項目の数量を適正に算出すること。

(2) 擁壁高さ区分

プレキャスト擁壁高さによる区分は、以下の通りとする。



6.2 補強土壁工(帯鋼補強土壁, アンカー補強土壁)

1. 適用

補強土壁工(帯鋼補強土壁(1)・帯鋼補強土壁(2)・アンカー補強土壁)においてコンクリート製壁面材(帯鋼補強土壁においては、薄型壁面材を含む)によるものに適用する。

2. 数量算出項目

補強土壁工の施工面積, 補強土壁基礎を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

| 項目 \ 区分 | 規格 | 単位 | 数量 | 備考 |
|---------|----|----------------|----|----|
| 補強土壁 | ○ | m ² | | |
| 補強土壁基礎 | ○ | m | | |

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 補強土壁の内訳は下記の項目で算出する。

| 項目 \ 区分 | 規格 | 単位 | 数量 | 備考 |
|----------|----|-----------------|----|------|
| 壁面材 | ○ | m ² | | 注) 2 |
| 補強材 | ○ | m | | |
| 補強土壁工盛土 | ○ | m ³ | | |
| 天端コンクリート | ○ | m ³ | | |
| 天端鉄筋 | ○ | t | | |
| 天端型枠 | × | m ² | | |
| 足場 | ○ | 掛m ² | | |
| 暗渠排水管据付 | ○ | m | | |
| フィルター材 | ○ | m ³ | | |

注) 1. 補強土壁面積に対するものとする。

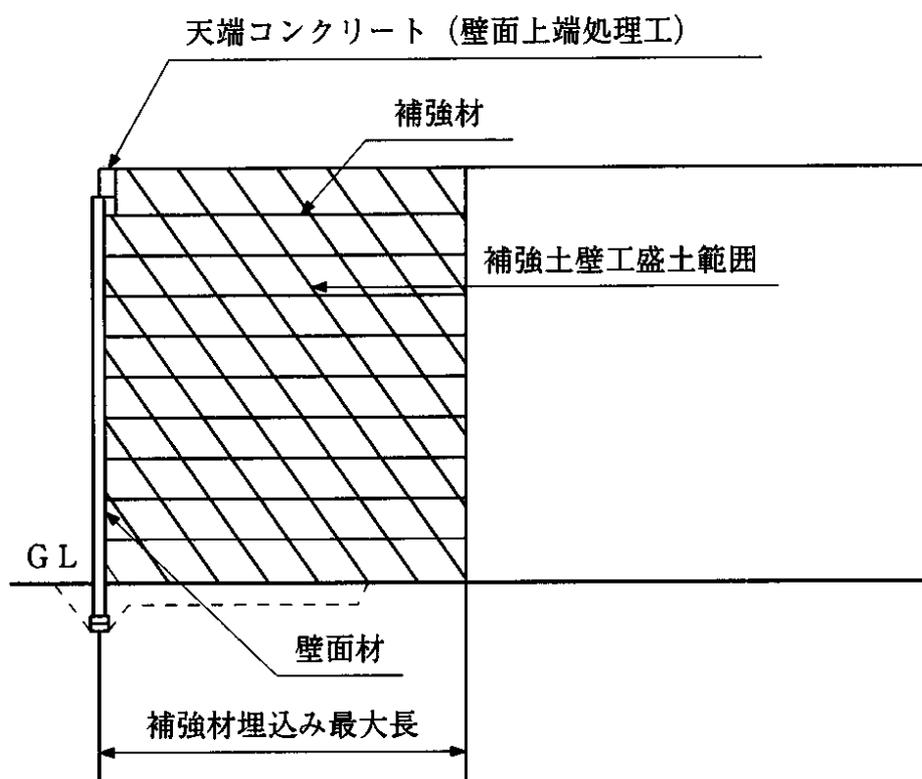
2. 壁面材種類(帯鋼補強土壁(1)・帯鋼補強土壁(2)・アンカー補強土壁)について備考欄に明記する。

(2) 補強土壁基礎の内訳は下記の項目で算出する。

| 項目 | 区分 | 規格 | 単位 | 数量 | 備考 |
|----------|----|----|----------------|----|----|
| 基礎砕石 | ○ | | m ³ | | |
| 基礎コンクリート | ○ | | m ³ | | |
| 基礎型枠 | × | | m ² | | |

(注) 補強土壁基礎に対するものとする。

5. 参考図 (標準断面図)



補強土壁工標準断面図

(注) 補強土壁工盛土工範囲以外の盛土については、第I編、第2章土工により算出するものとする。

6.3 ジオテキスタイル工

1. 適用

ジオテキスタイル（ジオグリット、ジオネット、織布、不織布）を用いた補強土壁工及び盛土補強工に適用する。

2. 数量算出項目

壁面材の施工面積及び、ジオテキスタイルの敷設面積区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、材料規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

| 項目 \ 区分 | 材料規格 | 単位 | 数量 | 備考 |
|----------|------|----------------|----|----|
| 壁面材 | ○ | m ² | | |
| ジオテキスタイル | ○ | m ² | | |

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 補強土壁の内訳は下記の項目で算出する。

| 項目 \ 区分 | 規格 | 単位 | 数量 | 備考 |
|----------|----|-----------------|----|----|
| 壁面材 | ○ | m ² | | 注) |
| 天端コンクリート | ○ | m ³ | | |
| 天端鉄筋 | ○ | t | | |
| 天端型枠 | ○ | m ² | | |
| 足場 | ○ | 掛m ² | | |
| 暗渠排水管据付 | ○ | m | | |
| フィルター材 | ○ | m ³ | | |

注) 1. 壁面材の100m²当たり使用量を備考欄に明記する。

2. 壁面材において、鋼製ユニット及び土のう（植生土のう）については直面積、植生マットについては斜面積とする。

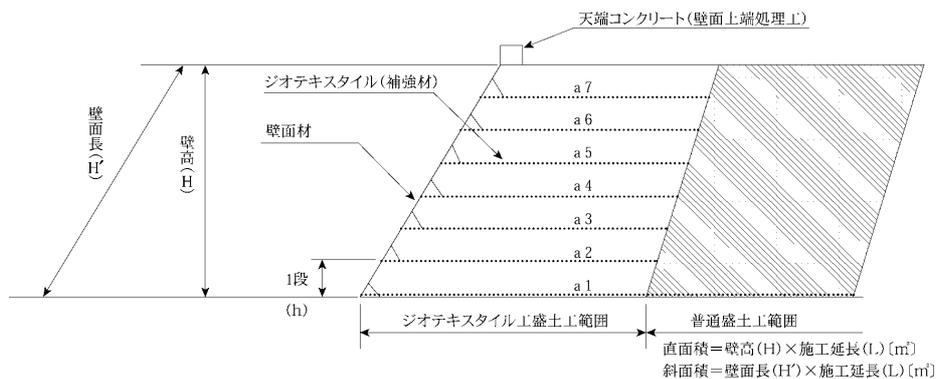
(2) ジオテキスタイルの内訳は下記の項目で算出する。

| 区 分 項 目 | 規 格 | 単 位 | 数 量 | 備 考 |
|------------|-----|----------------|-----|----------|
| ジオテキスタイル敷設 | × | m ² | | 注) 1 |
| ジオテキスタイル材料 | ○ | m ² | | 注) 2 |
| 盛 土 材 | ○ | m ³ | | 注) 3 , 4 |

- 注) 1. ジオテキスタイル敷設面積の算出にあたっては、「5. 参考図(1)ジオテキスタイル工標準断面図」を使用する。
 2. ジオテキスタイル材料面積は、巻き込み部、重ね合わせ等を含んだ、必要面積を算出する。
 3. ジオテキスタイル工盛土工範囲の数量を算出する。
 4. 盛土材においては、一層当たりの施工高を規格に記載する。

5. 参考図 (標準断面図)

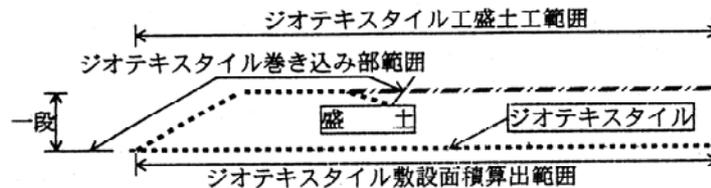
(1) ジオテキスタイル工標準断面図



- (注) 1. ジオテキスタイルの敷設面積については、次式のとおりとする。

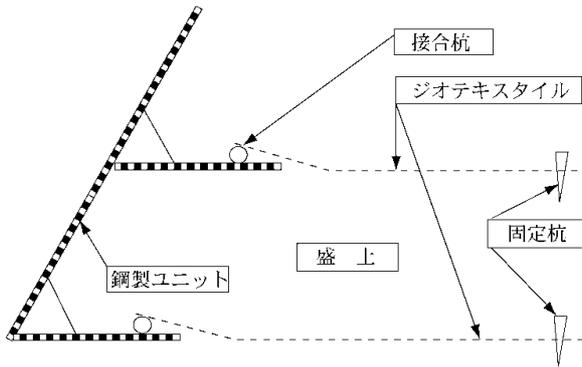
$$\text{ジオテキスタイル敷設面積} = a_1 + a_2 + a_3 + \dots \quad (\text{m}^2)$$

$$a_1, a_2, a_3 \dots \text{ジオテキスタイル工一段当たり敷設面積} (\text{m}^2)$$
2. ジオテキスタイル一段当たり敷設面積は、ジオテキスタイル工盛土工範囲における、一段当たりの底面積を算出するものとし、巻き込み面積は含まないものとする。

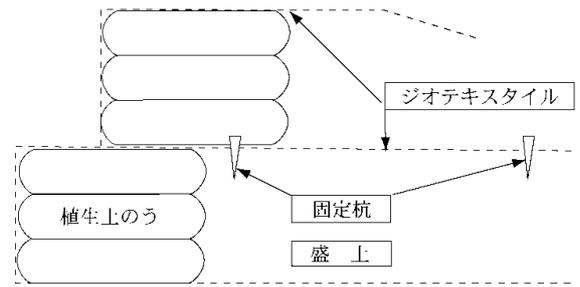


3. 一段当たりの施工高さは1.5mまでとする。
 4. ジオテキスタイル工盛土工範囲以外の普通盛土工については、第I編第2章土工により算出するものとする。

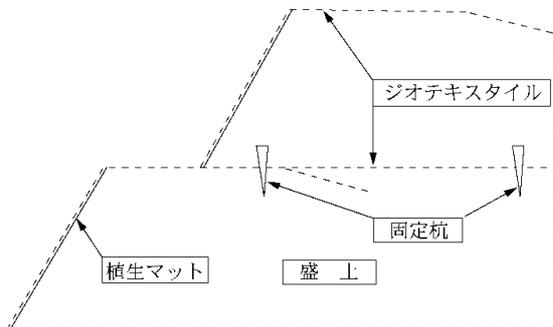
(2) 施工法別参考図



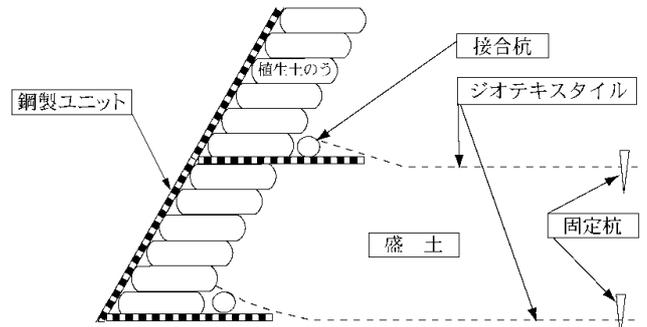
図A 鋼製ユニット工法参考図



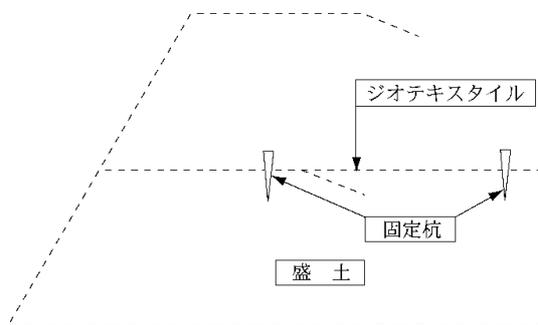
図B 巻き込み工法(植生土のう)参考図



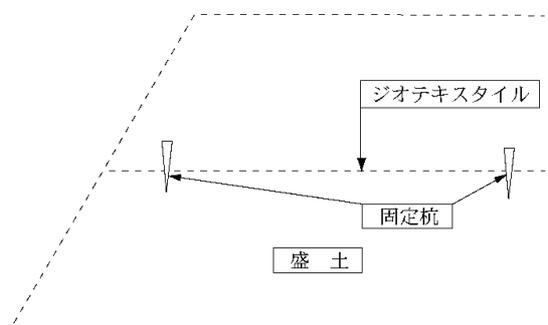
図C 巻き込み工法(植生マット)参考図



図D 鋼製ユニット+植生土のう工法参考図



図E 巻き込み工法(壁面材なし)参考図



図F 普通敷設工法(壁面材なし)参考図

6.4 場所打擁壁工

6.4.1 場所打擁壁工(1)

6.4.1.1 擁壁

1. 適用

擁壁工の施工に適用する。

2. 数量算出項目

小型擁壁（A）、小型擁壁（B）、重力式擁壁、もたれ式擁壁、逆T型擁壁、L型擁壁、ペーラインコンクリートの数量を区分ごとに算出する。

- 注) 1. 基礎砕石厚さ20cmを超える場合は、「第1編（共通編）9.1 砕石基礎工」によるものとする。
 2. ペーラインコンクリートについては、「第1編（共通編）4.1 コンクリート工」によるものとする。
 3. コンクリート打設機械の作業範囲（30m）を超える場合は、作業範囲（30m）を超えた部分は「第1編（共通編）6.4.1.3 圧送管組立・撤去（場所打擁壁工）」によるものとする。

3. 区分

区分は、平均擁壁高さ、コンクリート規格、施工条件、鉄筋量、基礎砕石の有無、均しコンクリートの有無、養生工の種類、圧送管延長距離区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

| 項目 | 区分 | 平均擁壁高さ | コンクリート規格 | 施工条件 | 鉄筋量 | 基礎砕石の有無 | 均しコンクリートの有無 | 養生工の種類 | 圧送管延長距離区分 | 単位 | 数量 | 備考 |
|---------|----|--------|----------|------|-----|---------|-------------|--------|-----------|----|----|----|
| 小型擁壁（A） | | ○ | ○ | × | × | ○ | ○ | ○ | × | m3 | | |
| 小型擁壁（B） | | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | × | m3 | | |
| 重力式擁壁 | | ○ | ○ | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | m3 | | |
| もたれ式擁壁 | | × | ○ | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | m3 | | |
| 逆T型擁壁 | | × | ○ | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | m3 | | |
| L型擁壁 | | × | ○ | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | m3 | | |

- 注) 1. 設計数量は、つま先版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。
 2. 基礎砕石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
 3. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。

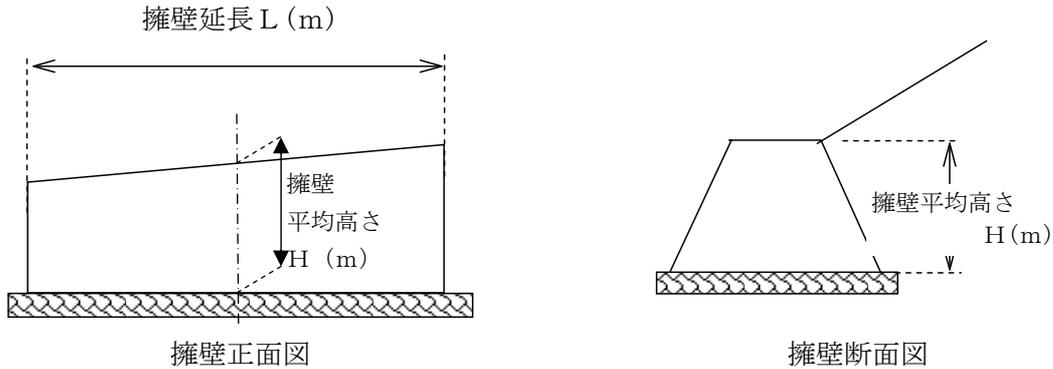
[参考図]

擁壁高さが変化する場合の擁壁平均高さH (m)

$$H = A / L \text{ (m)}$$

A = 正面図での擁壁面積 (m²)

L = 擁壁延長 (m)

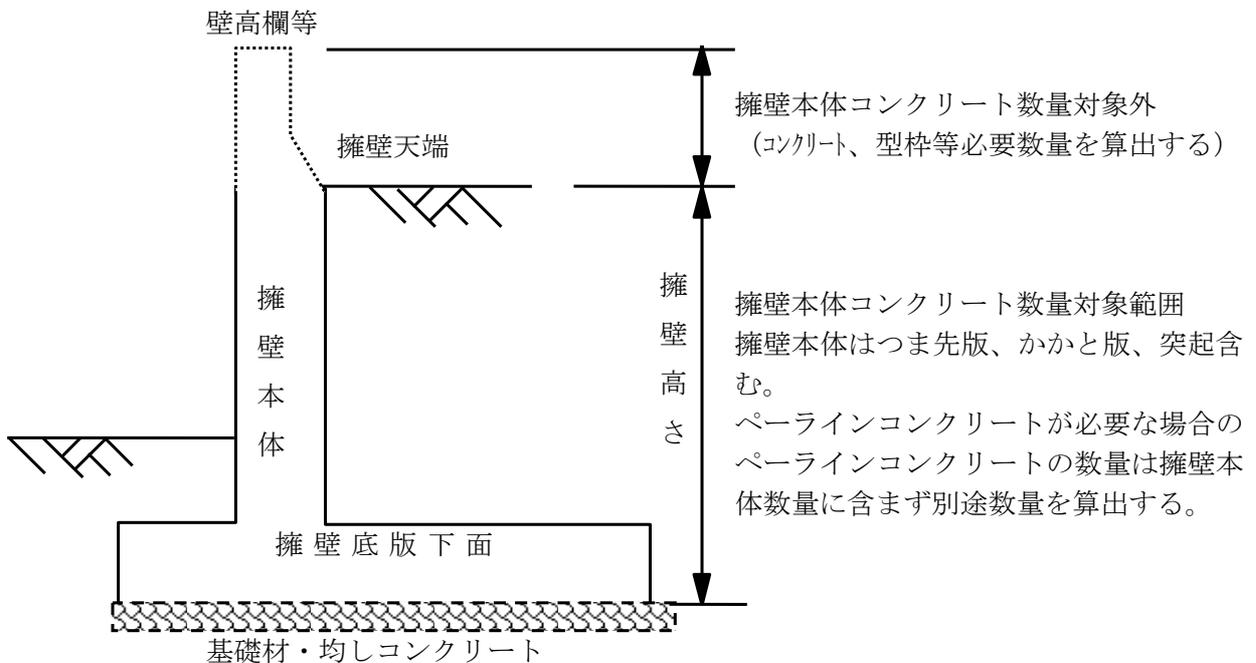


4. 数量算出方法

擁壁本体コンクリート数量に含めないものについては、コンクリート数量を本体と区分して計上する。

- ・ 擁壁本体コンクリート打設後に打設する付属物（擁壁天端に施工する壁高欄等）については、別途コンクリート、型枠、目地材等必要数量を算出する。

[参考図] 擁壁本体コンクリート数量の範囲



6.4.1.2 圧送管組立撤去(場所打擁壁工)

1. 適用

場所打擁壁において、コンクリートポンプ車配管打設にて施工する場合の圧送管組立・撤去に適用する。

2. 数量算出項目

コンクリート打設機械及びコンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長を算出する。

注) 1. 圧送管組立・撤去は日々組立撤去に適用する。

3. 区分

区分は、圧送管延長とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

| 項目 | 区分 | | 圧送管延長 | 単位 | 数量 | 備考 |
|--------------|-------|-------|-------|----|----|----|
| | 30m超え | 30m以下 | | | | |
| 圧送管 組立・撤去 | 30m超え | ○ | ○ | m | ○ | |
| | 30m以下 | × | × | — | × | |

注) 数量は、作業半径30mを超えた部分の圧送管延長とする。

6. 4. 2 場所打擁壁工(2)

1. 適用

場所打擁壁工（1）の適用範囲を越えるもの又、場所打擁壁工（1）に含まれない構造のもの

2. 数量算出項目

コンクリート、鉄筋、均しコンクリート、型枠、基礎材、足場等各々について各とりまとめにより数量を算出する。但し、擁壁本体コンクリート打設後に打設する付属物（擁壁天端に施工する壁高欄等）については、コンクリートを本体数量と区分して計上する。

- 注) 1. コンクリート（擁壁本体コンクリート）については、「第1編（共通編）6. 4. 1 場所打擁壁工（1）」によるものとする。
2. 鉄筋工については、「第1編（共通編）4. 3. 1 鉄筋工」によるものとする。
3. 均しコンクリート、ペーラインコンクリート及び擁壁本体コンクリート打設後に行う付属物等のコンクリートについては、「第1編（共通編）4. 1 コンクリート工」によるものとする。
4. 型枠については、「第1編（共通編）4. 2 型枠工」によるものとする。
5. 基礎材については、「第1編（共通編）9. 1 砕石基礎工」によるものとする。
6. 足場については、「第1編（共通編）11. 4 足場工」によるものとする。
7. 裏込材については、「第1編（共通編）5. 4 コンクリートブロック積(張)工」によるものとする。
8. 吸出し防止材については、別途算出する。
9. 水抜パイプについては、別途算出するものとする。
10. 目地材については、別途算出するものとする。